部　方　針　書

年度	部名	部長名
R5	観光スポーツ文化部	冨田　尚彦

1　部の経営方針　部全体を俯瞰したマネジメントの目標

No	項目（業務、組織、人材等に関するマネジメント目標ごとに記載）
1	戦略的なプロモーションや誘客戦略の強化により,国内外からの誘客拡大を図る。
2	多様なステークホルダーとの連携・共創を図り、ときわ公園が様々な世代や誘客が訪れる都市公園を目指す。
3	様々なステークホルダーと交流・連携し、スポーツのまちとしての魅力向上と市民が愛着と誇りを共有できる先駆的なスポーツ振興都市づくりを目指す。
4	文化に触れ楽しめる環境づくりやポップカルチャーの浸透を図り、アートによるまちづくりを進める。また、歴史あるUBEビエンナーレを市民一人ひとりのシビックプライドに繋げていく。
5	多様性や多文化を尊重し合い、相互に認め合える共生社会の構築を目指す。
6	観光・スポーツ・文化を市民や誘客に楽しんでもらえるためにも、日々自分たちが楽んで仕事ができるように環境改善に取り組む。

◎心理的安全性確保に向けた取組

ミーティング時に目標やビジョンの共通認識を図るとともに、活発なコミュニケーションを心がけ、誰でも意見がいえる環境づくりを目指す。

2　部が所管する主な個別計画　前期実行計画に掲げる施策に関連する特定分野における計画

No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類	No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類	No.	計画名	計画期間	前期実行計画分類
1	宇部市観光交流アクションプラン	R4～R8	基本目標3 魅力と賑わい	2	ときわ公園活性化基本計画（第三次）	R4～R8	基本目標3 魅力と賑わい	3	第2次宇部市スポーツ推進計画	R4～R8	基本目標3 魅力と賑わい
4	宇部市文化振興ビジョン（第三次）	R4～R8	基本目標3 魅力と賑わい								

課 方 針 書

年度	課名	課長名
R5	観光交流課	上田 優作

1 課の使命

課の果たすべき責務、存在理由

●インバウンドをはじめとした観光客による宿泊・飲食などのへの消費を喚起し、地域経済への波及効果を高める「儲かる観光」へのシフトを最大のミッションとする。
●地域資源を活用したコンテンツの造成や、MICEの誘致等による交流人口の拡大を図り、県央連携や山口県との連携も生かしながら、本市のブランド力を高める。
●グローバル化が進む中で、外国人労働者と地域住民との相互理解や、インバウンド観光客への適切な対応など、社会全体の包摂性を高め、多文化共生社会にふさわしいまちづくりを進める。

2 課の目標・アウトカム

前期実行計画及び総合戦略の目標、その他個別計画や課の使命等に基づく目標とアウトカム

目標No	目標・成果指標	計画種別	計画期間	目標値（単位）	R4年度末の実績見込値	R5年度末の目標値	アウトカム（ありたい姿・得られる効果）
1	観光交流人口	第五次総合計画	R4～R8	180万人	143万人	150万人	観光施策による交流人口の増加 宿泊・飲食などを伴う観光消費額の増加
2	のべ宿泊客数	個別計画	R4～R8	30万人	21万人	24万人	観光施策による交流人口の増加 宿泊・飲食などを伴う観光消費額の増加
3	TV・ロケ地誘致件数（累計）	第五次総合計画	R4～R8	150件	95件	111件	TVや映画を活用した市のイメージアップ、 地域への愛着心の向上
4	宇部市の認知度（全国順位）	第五次総合計画	R4～R8	270位	351位	285位	観光施策の効果の検証 実効性のある観光施策の推進
5	多文化共生推進ビジョンの策定			策定	—	策定	社会全体の包摂性を高め、 多文化共生社会にふさわしいまちづくりを進める

課 方 針 書

3 課の目標・アウトカムの達成に向けた取組とスケジュール

<table>
<tr><th>目標No.</th><th>事業名</th><th colspan="2">事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）</th><th>R4年度目標</th><th>R4年度実績</th></tr>
<tr><td rowspan="6">1</td><td>観光交流創出事業
（観光プロモーション強化事業）
（観光コンベンション・宇部DMO推進事業）</td><td colspan="2">県の調査によると、最も集客力のある本市の観光ポイントはときわ公園となっており、観光客数では全体の約60%を占めている。
また、観光客数のうち県外からの観光客は全体の約20%となっており、旅行客の宿泊や飲食による地域経済への効果は限定的と推測される。
海外からのチャーター便の再開が計画され、R7年には大阪・関西万博が開催されることから、今後増加が期待されるインバウンド需要を確実に取り込むことで市内事業者の成長力を高め、宿泊・飲食の消費増など「儲かる観光」につながる観光施策を進める必要がある。
大規模コンベンションの開催は、宿泊を含めた高い経済効果が期待できることから、（一社）宇部観光コンベンション協会と連携し、県内トップ水準の助成金制度を呼び水としたMICE誘致を進める必要がある。</td><td>観光交流人口
140万人</td><td>観光交流人口
143万人</td></tr>
<tr><td colspan="3">取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）</td><td>当初予算額(千円)</td><td>R5年度目標</td></tr>
<tr><td colspan="3"><u>観光プロモーション強化事業</u>
インフルエンサーを活用した「旅色」を発行。男性タレントを起用することで、若い世代や子育て世代の女性の関心を引き寄せていく。
今年度は大型遊具も完成し、本市の子育て環境をアピールできる要素が増えていくため、「旅」という視点で市内の観光スポットをPRするだけでなく、移住などもイメージできるような内容を検討していく。
大阪・関西万博開催を見据え、観光目的地としての本市の認知度を高めることがポイント。
<u>観光コンベンション・宇部DMO推進事業</u>
大きな経済効果が見込まれるコンベンションの誘致を、県内トップ水準の助成金にて誘致する。
また、集客力のあるKDDI維新ホールに対する競争性を高めながらも、一方で大会主催者に、本市での宿泊を検討してもらう契機となるよう、新山口駅までの交通移動を支援。
市内での宿泊、飲食の機会の増加を図る。</td><td>51,200

【観光プロモーション強化事業】
18,700
【観光コンベンション・宇部DMO推進事業】
32,500</td><td rowspan="3">観光交流人口
150万人</td></tr>
<tr><td>（庁内連携課）</td><td colspan="2">移住定住推進課、広報広聴課、連携共創推進課</td><td rowspan="2">うち一財 38,600</td></tr>
<tr><td>（共創パートナー）</td><td colspan="2">（一社）宇部観光コンベンション協会、宇部ふるさとコンパニオンの会、宇部商工会議所、「山口ゆめ回廊」観光推進協議会、宇部旅館ホテル生活衛生同業組合、宇部観光料飲組合、（一社）山口県タクシー協会、JAF</td></tr>
</table>

課 方 針 書

1

事業スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

＜観光プロモーション強化事業＞

●契約
●タレント選出
●撮影
●ロケハン
●動画公開
●冊子納品
●CM制作業者選定
●動画や冊子を活用したプロモーション開始
●CM放映開始

＜「山口ゆめ回廊 観光推進協議会」の設置（7市町の観光コンベンション協会・観光担当課）＞

・圏域住民限定キッズサマーパス
●広報誌による周知
実施予定

・デジタルコンテンツ開発実施（リアル宝探し等）
実施予定
●コースの選定
●冊子配布・プロモーション

・7市町合同プロモーション
●空の日記念フェスティバル
●駅の笑顔まつり

宇部観光コンベンション・DMO推進事業

＜MICE誘致＞

●コンベンション部会
（新助成金制度の検討）（PCO・コンベンション運営会社）への売り込み
●山大医・工学部での相談窓口設置
●山大医・工学部での相談窓口設置
（PCO・コンベンション運営会社）への売り込み
●中四国コンベンション推進協議会（商談会）
●国際MICEエキスポ出展
●山口県MICE誘致推進協議会(11月・12月)

＜フィルムコミッション＞

●シン・仮面ライダー公開記念パネル展in宇部（4/18～5/31）
●新助成金制度構築
●全国ロケ地フェア（商談会）
●全国ロケ地フェア（商談会）

（随時→撮影隊の支援（ロケ地案内、地元や企業との調整）、エキストラ、ボランティア募集、OA実績の市民周知（WEBなど）、ロケ候補地の情報収集、ロケ候補地の発掘・磨き上げ）

＜着地型ツアー＞

春バージョン6コース11ツアー
ラーメンツアー、花火鑑賞ツアー等
秋バージョン10コース16ツアー
●山口宇部空港滑走路ツアー
●山口宇部空港滑走路ツアー

3大まつり

【新川市まつり】
●広報掲載
●実施(5/5)

【花火大会】
●広報掲載
●クラウドファンディング検討
●実施(7/22)

【宇部まつり】
●若者との意見交換会
●広報掲載（参加募集）
●広報掲載
●実施(11/5)

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
2	コンテンツ活用事業	水際対策の緩和により、回復するインバウンド需要を確実に取り込み、さらにR7年に開催が予定されている大阪・関西万博を契機に拡大することが予想される外国人観光客を本市への誘客に結び付けることが重要。 H31の訪日外国人流動データによると、山口県を訪れる外国人のうち、最も多いのは福岡からの旅行客（約70,000人）。 入国ルートも下関港（26,200人）に続き、福岡空港経由（11,800人）が主要ルートとなっており、羽田空港（6,200人）、広島空港（1,000人）と比較しても、福岡空港から山口に流動する外国人が多いことがわかる。 また、福岡から山口に流動した外国人を国籍別に見た場合、韓国から38,100人、台湾から17,800人と両国からのインバウンドが多くなっている。 台湾では日本のアニメが多数放送されており、「新世紀エヴァンゲリオン」も人気があることから、今後さらなる回復を見込むインバウンド需要を本市への観光につなげていく必要がある。	観光交流人口 140万人	観光交流人口 143万人

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
「まちじゅうエヴァンゲリオン3」を10月から1月に開催 前回よりも開催期間が1か月長く、開催時期も秋冬とイベントが多い時期と重なるため、他の施策と連携しながら、R4年以上の来場者数を目指す。 R5年度は版権を管理する事業者と連携し、企画・展示・装飾・参加の方法などについて専門家の支援を受けながら宇部市全体を盛り上げていく。 また、R4年度に続くグルメフェアや地元企業によるキーアイテム製作など地元の民間企業と連携し、まちじゅうエヴァンゲリオンの話題性を高めていく。 エヴァンゲリオンの集客力を市内の宿泊や飲食につなげていく企画を実施。		40,065	観光交流人口 150万人
（庁内連携課）	地域ブランド推進課、都市計画課、ときわ公園課、文化振興課	うちー財 20,071	
（共創パートナー）	㈱宇部スチール、山口宇部空港ビル㈱、西日本旅客鉄道㈱、（一社）宇部観光コンベンション協会、宇部観光料飲組合、宇部旅館ホテル生活衛生同業組合		

事業スケジュール

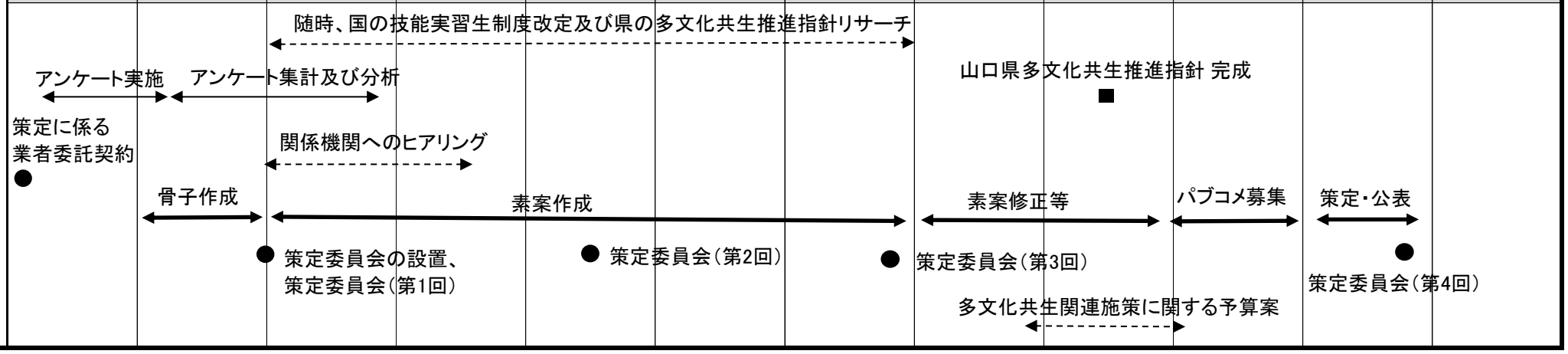
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
●アドバイザーとの契約、関係者調整			●記者会見（7/25）			●広報うべ掲載					
						10/6 まちじゅうエヴァンゲリオン第3弾			1/8	●効果・検証（ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰと次年度に向けた協議）	
	●空港装飾内容検討		●海外向けプロモーション			●空港装飾、ポップアップストア開始					
●グルメフェア事業者説明会 4/24~25				●ＰＲ強化期間（インバウンド含む）							
							11/26		1/8		
							まちじゅうエヴァンゲリオン×TOKIWAファンタジア連携企画				

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
3	多文化共生ビジョン	●H27年度からR3年度にかけて外国人登録者数が増加しており（16%増）、近年ではベトナムやネパールからの外国人登録者が増加している。 ●国内においては専門的・技術的分野の在留資格を有する人数が大きく増加している。 ●厚生労働省において、「技能実習制度の廃止・新制度への移行」が議論されており、外国人労働者の受入のあり方が変わる可能性がある。 ●外国人労働者が暮らしやすく働きやすい生活環境を整備することが、高度な専門人材の獲得による産業力の強化や人口減少対策など、本市の課題解決につながると考える。	―	―

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
外国人住民の多国籍化に伴い、多様性･包摂性のある社会実現への動きやデジタル化の進展といった社会情勢の変化に対応するため国の「地域における多文化共生推進プラン」が改定されている。 本市としても、この国の方針を踏まえ、国籍にかかわらず、すべての市民が異なる文化や価値観、生活習慣等を理解し、だれもが安心して暮らせる地域づくりを推進するため、本市の多文化共生に向けた新たな方向性を明示したビジョンを策定する。 （日本人住民の意識調査、外国人住民の実態調査の実施、外国人住民や外国人に関わる事業所等へのヒアリングの実施、パブリックコメント）		3,798	ビジョン策定
（庁内連携課）	広報広聴課、防災危機監理課、デジタル推進課、市民活動課、廃棄物対策課、人権・男女共同参画推進課、こども支援課、企業立地推進課、学校教育課、教育支援課、宇部・山陽小野田消防組合	0 うち一財　（国際交流基金繰入金）	
（共創パートナー）	宇部商工会議所、山口大学工学部、宇部工業高等専門学校、日本語クラブ宇部、関係事業者		

事業スケジュール

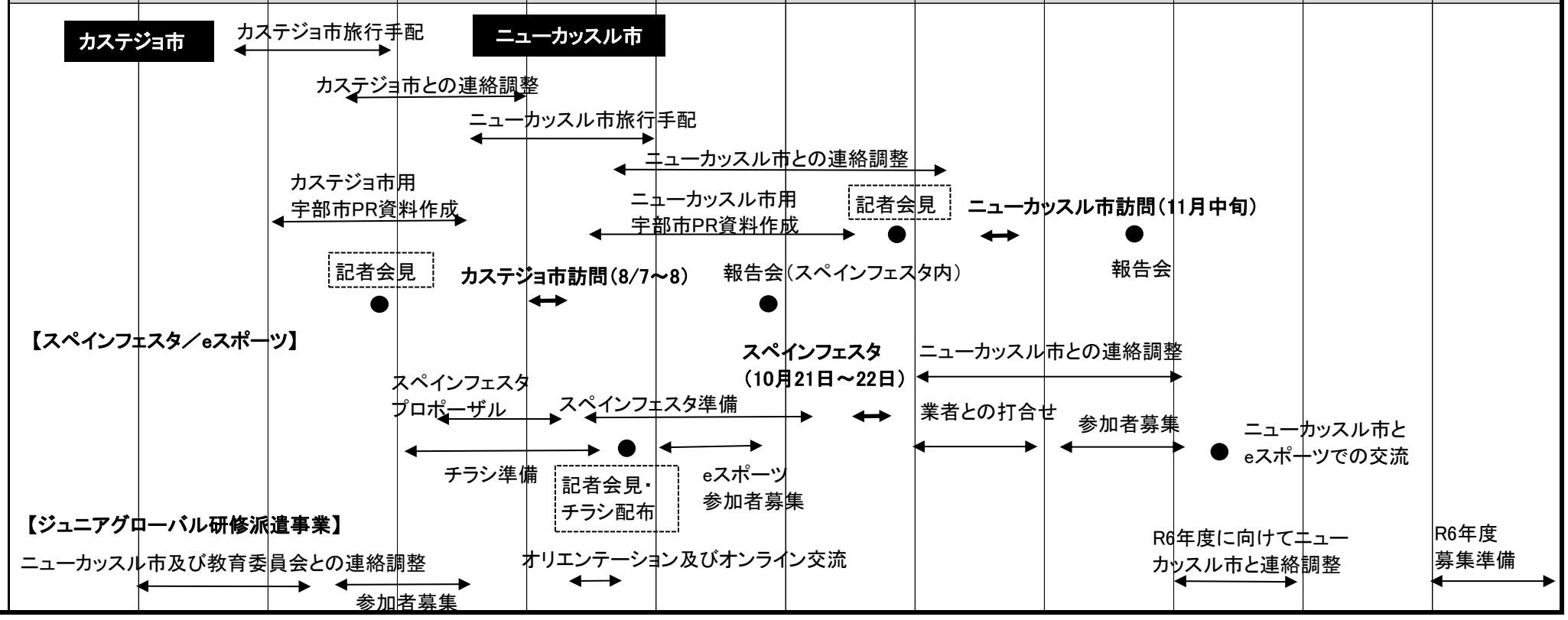


課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
4	姉妹・友好都市交流促進事業	姉妹・友好都市との交流を通じて相互理解を深め、民間団体等の交流促進を図るため、オンライン対談で協議した経済や教育、文化等での交流について具体的に話を進めていく。	3都市とのオンライン対談	カステジョ市及びニューカッスル市とのオンライン対談

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
・カステジョ・デ・ラ・プラーナ市（6月19日～20日） R4年度に締結した「宇部市及びカステジョ・デ・ラ・プラーナ市との姉妹都市交流に関する確認書」に基づき、今後の交流について具体的な方向性を定めていく。 ・ニューカッスル市（11月中旬） 訪問団を派遣し、今後の交流の委細を決定する。		10,512	カステジョ市及びニューカッスル市訪問
（庁内連携課）	広報広聴課、スポーツ振興課、中心市街地活性化推進課、教育委員会	0 うち一財 （国際交流基金繰入金）	
（共創パートナー）	UBE㈱、カステジョ市、ニューカッスル市、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会		

事業スケジュール



課　方　針　書

年度	課名	課長名
R5	ときわ公園課	東原　隆

1　課の使命

課の果たすべき責務、存在理由
市民が誇れる都市公園になることをめざして、多様化する観光ニーズやアフターコロナに合わせた取組を柔軟かつ迅速に推進し、「市民の憩いの場」と元気な「観光交流の拠点」の両立を実現するとともに、企業が新たなビジネスにチャレンジできる場を創出することで、地域経済の活性化につなげていく。

2　課の目標・アウトカム　前期実行計画及び総合戦略の目標、その他個別計画や課の使命等に基づく目標とアウトカム

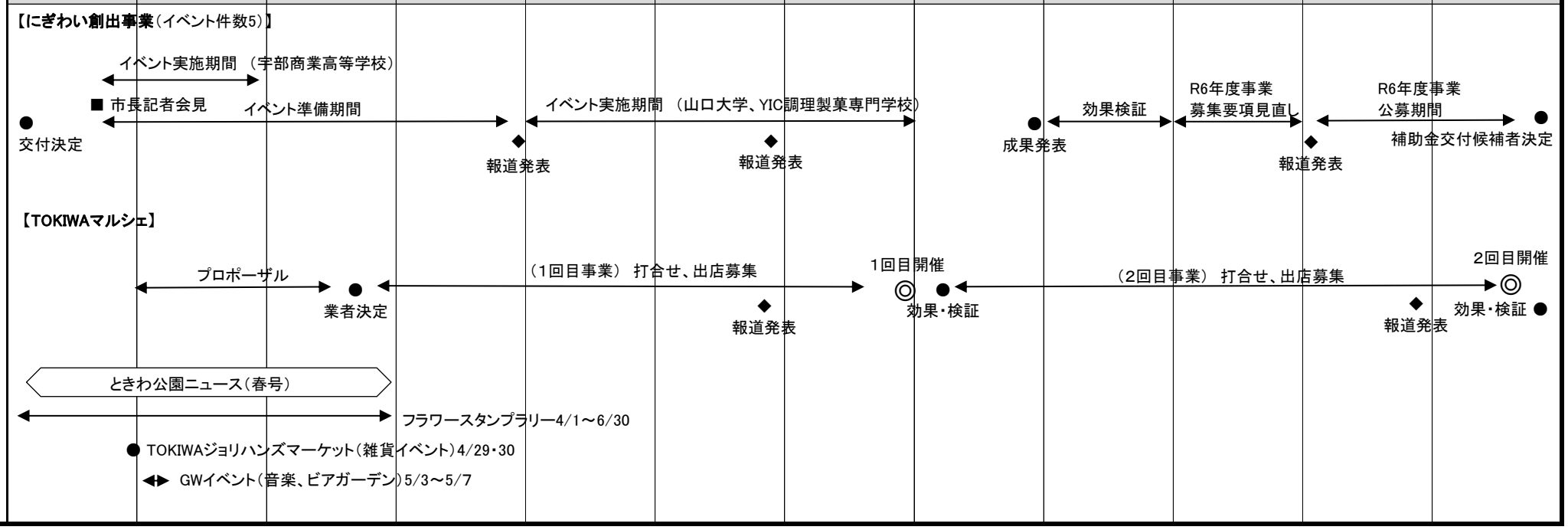
目標No	目標・成果指標	計画種別	計画期間	目標値（単位）	R4年度末の実績見込値	R5年度末の目標値	アウトカム（ありたい姿・得られる効果）
1	ときわ公園年間入園者数	第五次総合計画	R4～R8	800,000人	700,000人	730,000人	観光交流人口の拡大が図られることで、にぎわいにあふれる公園となる。また、若者や地元事業者との共創によるイベント等の取組が進むことで、住みたくなるまちづくりにつながる。
2	ときわ動物園年間入園者数	個別計画	R4～R8	160,000人	109,000人	120,000人	生息環境展示という全国でも特色ある施設の強みを活かし、社会見学をはじめ観光交流人口の拡大が進むことで、地域の活性化が図られる。
3	世界を旅する植物館年間入館者数	個別計画	R4～R8	60,000人	54,000人	60,000人	世界を旅し、感動する植物館というコンセプトを強化することで、社会見学をはじめ観光交流人口の拡大が進み、地域の活性化が図られる。

3 課の目標・アウトカムの達成に向けた取組とスケジュール

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
1	ときわ公園ブランド推進事業	園内にて様々なイベントを行う中で、コロナ禍前のときわ遊園地入園者数は102,000人に対し、R4年度の入園者数は59,000人（40%減）と緩やかな回復傾向に留まっている。このうち県外からの来園者はコロナ禍前の16,000人から、R4年度は10,000人（30%減）に対し、市内からの来園者は45,000人から、R4年度は24,000人（45%減）と、市外に比べ市内からの来園者が回復に至っていない。	イベント集客数 160,000人	210,000人

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
これまで集客実績のあるTOKIWAファンタジアやハロウィンイベントのブラッシュアップを行い強化するとともに、新規の取組として、地元の学生や事業者などとの共創により、にぎわい創出事業及びTOKIWAマルシェを実施する。さらに、インバウンド効果も見据えた情報発信を行い、ときわ公園全体の誘客強化を図る。		54,426	220,000人
（庁内連携課）	北部地域振興課、農業振興課、水産振興課、地域ブランド推進課、広報広聴課、観光交流課	うち一財　18,289	
（共創パートナー）	地元事業者、各種団体、学生		

事業スケジュール



課　方　針　書

1

事業スケジュール

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

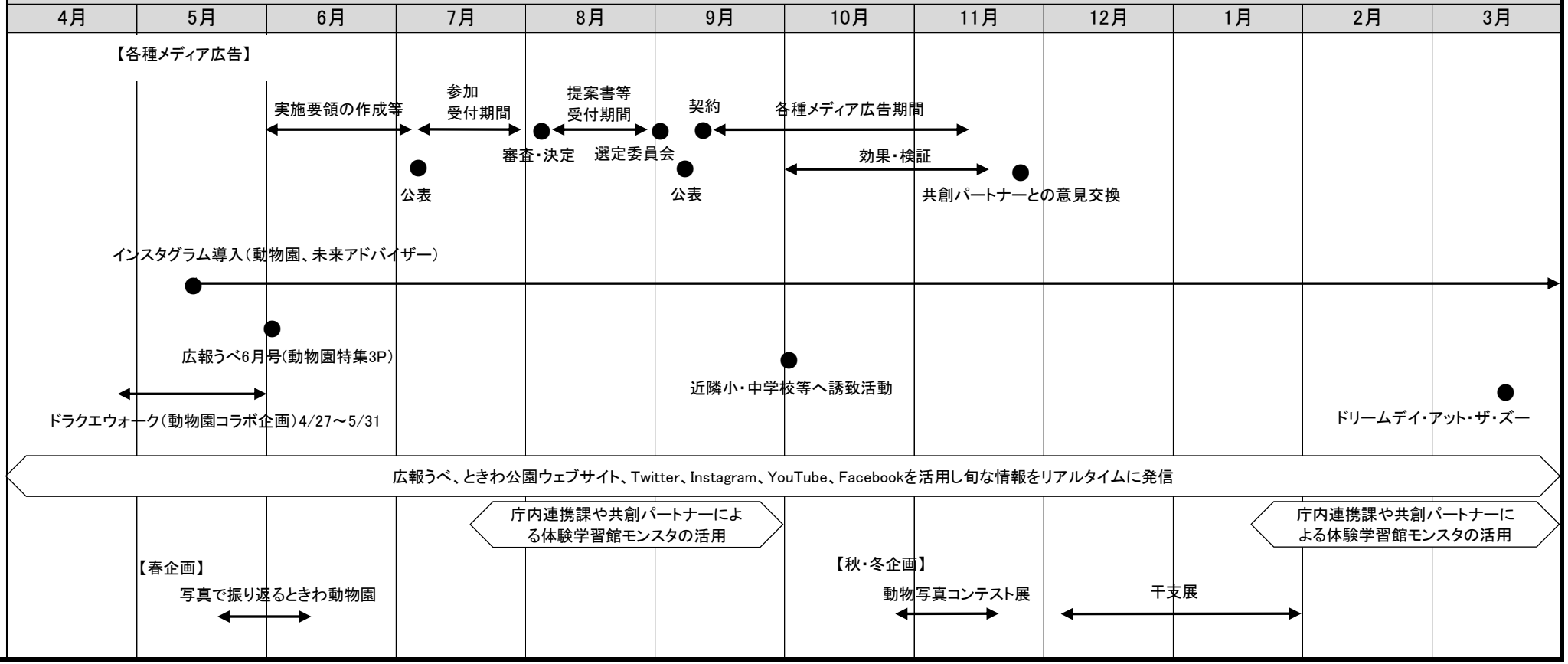
- ときわ公園ニュース（夏号）
- ◆ 報道発表
- じゃぶじゃぶ池7/21～8/21
- ● BBQリレーマラソン7/23
- ●（仮）こども科学館（宇部高専企画展）
- ● TOKIWAサマーナイト（夜間営業）8/19・20
- ● おもしろカップ9/10
- ときわ公園ニュース（秋号）
- ◆報道発表
- ● 広報うべ10月
- TOKIWAハッピーハロウィン（園内装飾、10/29ワンデーイベント）
- ●パルフェマーケット（雑貨イベント）10/29
- ● ホビーフェス
- ときわ公園ニュース（冬号）
- ◆ 報道発表
- ■ 市長記者会見
- まちじゅうエヴァ×TOKIWAファンタジア2023　連携企画11/26～1/8
- アニメ企画展11/24～1/17
- ときわ公園ニュース（春号）
- ◆ 報道発表
- 桜ライトアップ
- PR動画（ときわ公園ウェブサイト）
- 広報うべ、ときわ公園ウェブサイト、Twitter、Instagram、YouTube、Facebookを活用し旬な情報をリアルタイムに発信

課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
2	ときわ動物園推進事業	動物園年間入園者数は、R3年度103,000人に対し、R4年度109,000人で5.5%増加したものの、開園当初のH27年度と比べると48%減少している。グランドオープン以降、展示の入替や改修を行っておらずリピーターの獲得ができていない。また、イベントや企画展についても、例年同じものを繰り返しているだけで新しいものがない。	年間入園者数 119,000人	109,000人

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
コロナ禍前のH30年度とR4年度を比較して、最も落ち幅の大きい10、11月の入園者数回復を目標に、生息環境展示という全国でも特色ある施設の強みを活かした情報の発信を、SNSなどの各種メディア広告を活用することで、入園者数にどう影響したか、その効果・検証を行う。その検証結果を、共創パートナーと共有し、次年度に向けて新しいイベント・企画を構築する。また、新たにインスタグラムを開始して、「動物の赤ちゃん誕生」など話題性の高い旬な情報を即時に発信していくことで、集客に繋げる。		7,363	120,000人
（庁内連携課）	観光交流課、学校教育課	うち一財　0	
（共創パートナー）	宇部市常盤動物園協会、宇部観光コンベンション協会、宇部市ふるさとコンパニオンの会		

事業スケジュール

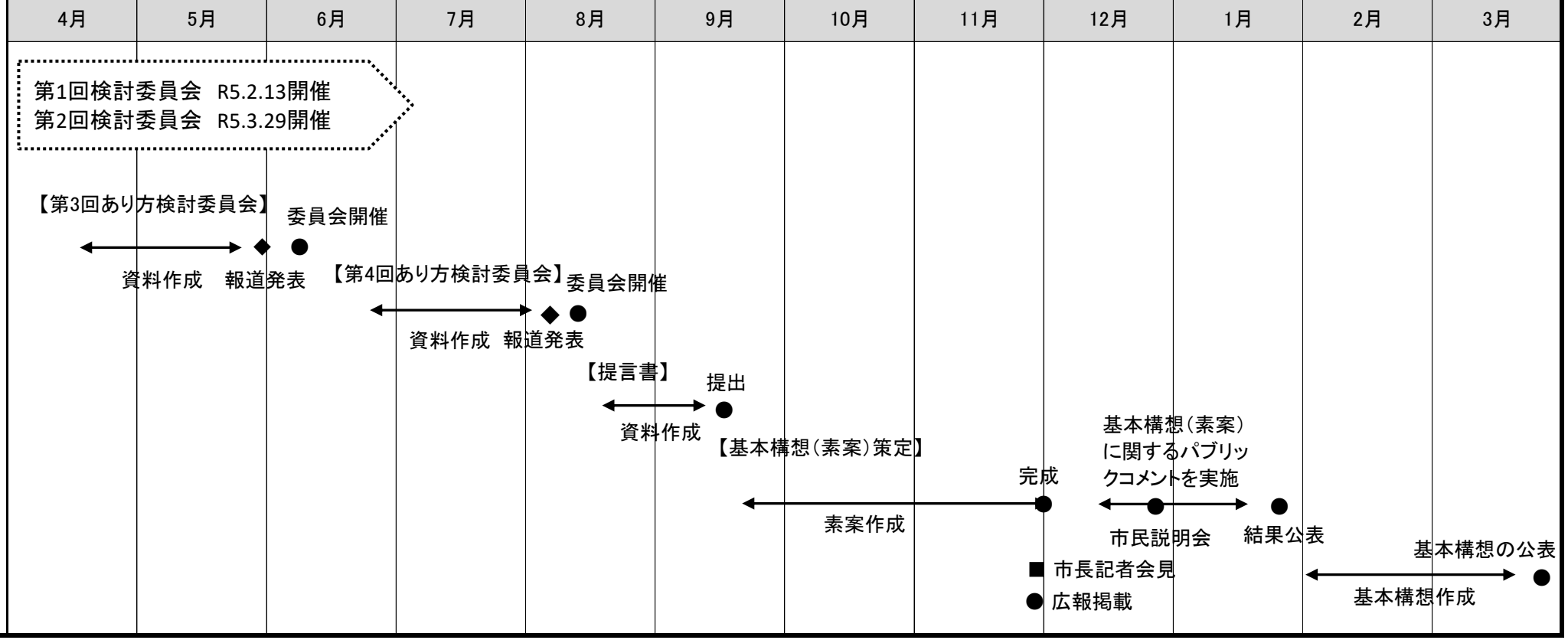


課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
3	ときわ公園管理運営事業	宇部市石炭記念館は、昭和44年に宇部炭田発祥の地である常盤湖畔に開館して、築後50年以上が経過し、建物や設備の老朽化が進んでいることから、今後のあり方について方向性を示す必要性がある。	アンケート調査実施	アンケート調査実施

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
宇部市石炭記念館あり方検討員会を開催していく中で、今後のあり方についての検討を行い、提言書の提出。その後、石炭記念館の基本構想（素案）の策定を行い、その基本構想（素案）に対するパブリックコメントの募集を行う。それを持って基本構想策定の公表をする。		96	宇部市石炭記念館基本構想の策定
（庁内連携課）	学校教育課、学びの森くすのき	うち一財 96	
（共創パートナー）	石炭記念館あり方検討委員会委員		

事業スケジュール

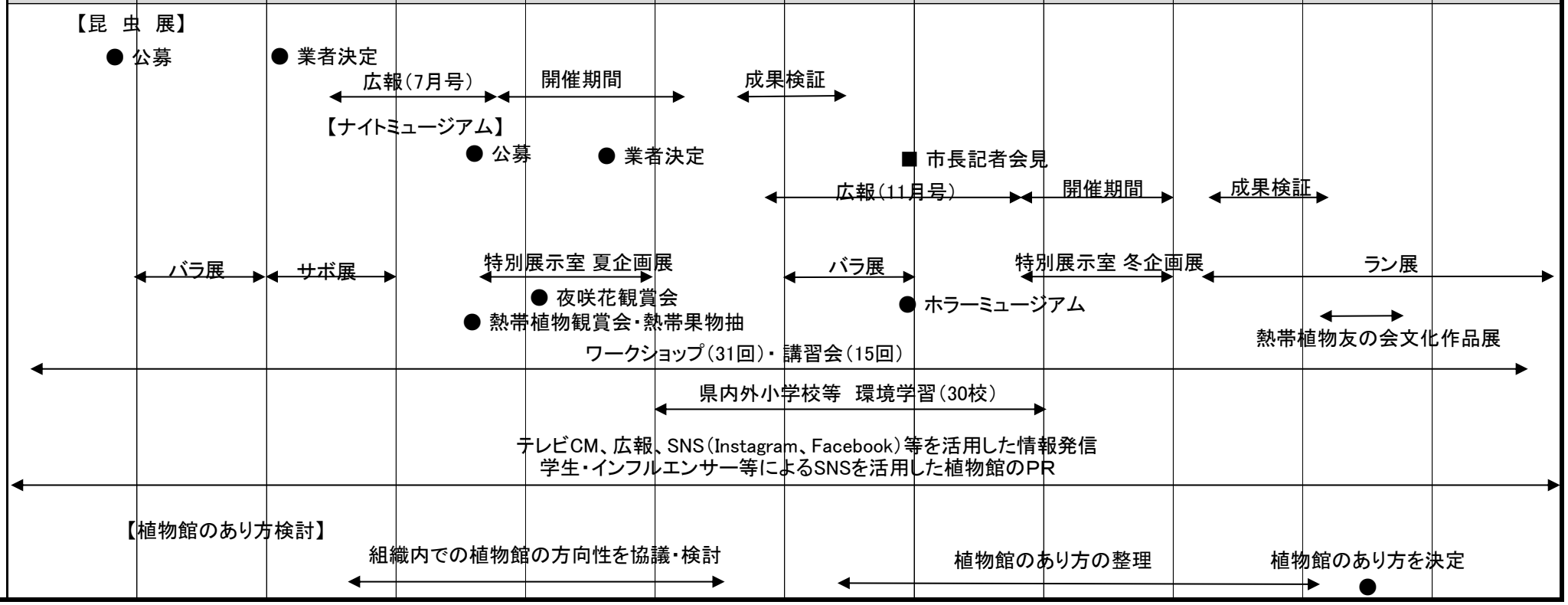


課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
4	博物館企画推進事業	R4年度の植物館入館者数が54,000人で、R3年度比で50%増加したが、ピーク時のH29年度に比べると、54%減少しており、入館者数の回復に向けた取組が必要である。 また、コロナ禍で落ち込んだインバウンドも、国内で回復傾向にあり、外国人旅行客に植物館へ足を運んでいただけるように情報発信の強化やポスピタリティーの向上が必要である。	植物館入館者数 45,000人	54,000人

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
四季に合わせた植栽展、前年度好評であった昆虫展及びナイトミュージアムを更にブラッシュアップし開催。新たなイベントとして、ハロウィンに合わせたホラーミュージアムや夜咲花観賞会を開催。 インバウンド効果等も見据えて、植物展示・イベントの情報発信を強化し、市内外に植物館をPRするとともに、ホスピタリティー向上のためコンシェルジュへの研修を行う。 また、地域の教育・文化を支える拠点の一つとして、ワークショップ・植物講習会、小学生等を対象とした環境学習の充実を図る。		13,336	60,000人
（庁内連携課）	観光交流課,公園緑地課,文化振興課,広報広聴課	うち一財　2,862	
（共創パートナー）	宇部市常盤動物園協会,宇部観光コンベンション協会,熱帯植物友の会，宇部市ふるさとコンパニオンの会，植物愛好家団体		

事業スケジュール



課 方 針 書

年度	課名	課長名
R5	スポーツ振興課	荒武則弘

1 課の使命

課の果たすべき責務、存在理由
「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも」市民一人ひとりがスポーツを通じて豊かな人生を送ることができる環境を整備するとともに、「する、みる、ささえる」スポーツの推進により、「誰もがスポーツを楽しむことができる　笑顔でつながるまち・宇部市」の実現をめざす。

2 課の目標・アウトカム　前期実行計画及び総合戦略の目標、その他個別計画や課の使命等に基づく目標とアウトカム

目標No	目標・成果指標	計画種別	計画期間	目標値（単位）	R4年度末の実績見込値	R5年度末の目標値	アウトカム（ありたい姿・得られる効果）
1	恩田スポーツパーク構想の推進	第五次総合計画	R5～R20	構想に基づく計画的整備	DBO方式による事業者公募	設計・施工の実施	恩田運動公園の再整備により、子どもから大人まで多くの市民が気軽にスポーツに触れる機会を創出することで、スポーツへの参加意欲が高まり、健康的なライフスタイルが広がることで、地域全体のQOL（Quality of Life：生活の質）が向上する。 また、幅広い年齢層や利用目的に対応した施設が整備されることで、交流人口の拡大をはかるとともに、経済効果や地域活性化へ繋げていく。
2	週１回以上スポーツをする成人の割合	第五次総合計画	R4～R8	80%	77.50%	80%	誰もがスポーツを楽しむことができる環境づくりを進めることにより、心身の健康の増進、スポーツを通した地域活動の増加による地域コミュニティの活性化など、共生社会の実現につながる活力ある地域づくりを進める。
3	スポーツを通じて交流する人の割合	第五次総合計画	R4～R8	25%	14.50%	15.40%	トップアスリートやプロスポーツチームの活躍により、多くの観戦者の来場や交流人口の増加がもたらす経済効果への期待に加えて、地域住民の連帯感やシビックプライドの醸成を図る。
4	新たな部活動体制整備事業	個別計画	R5～R8	１２校	－	体制整備・実証事業４団体	少子化の中でも、生徒たちがスポーツに継続して親しむことができる機会を確保することで、将来にわたりスポーツに親しむ機会を確保し、生涯スポーツの振興を図る。 地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備し、子供たちの多様な体験機会を確保する。

課 方 針 書

3 課の目標・アウトカムの達成に向けた取組とスケジュール

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
1	恩田スポークパーク整備事業	恩田運動公園は、開園後60年を経過し、施設の老朽化により現在は市民ニーズへの対応が困難な状況となっている。体育館、野球場、陸上競技場、補助競技場の4施設の平均利用率は25.7%(R2)であり、H27年（29.4%)と比較すると、3.7%の減となっている。特に陸上競技場は戦前に整備された施設で、利用率6.5%(R2)と低くなっている。 リニューアル整備にあたっては、設計・建設・維持管理・運営まで一括で発注するDBO方式を採用し、民間事業者の自由な提案を活用した多機能複合型施設として整備することで、若者に人気のアーバンスポーツ、トップレベルのスポーツイベントや合宿の誘致など、新たなスポーツ施設の拠点として、にぎわいの創出や地域活性化に繋げていく。	DBO方式による公募の実施	100%

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
恩田スポーツパーク整備の設計・施工・運営についてDBO事業者を選定し、基本協定および個別事業契約の締結、設計・施工の実施		920,732	設計・施工の実施
（庁内連携課）	公園緑地課、広報広聴課	うち一財 0	
（共創パートナー）			

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	●審査委員会の開催 優先交渉者の選定	▼優先事業者公表	●基本協定（DBO)締結（設計・施工（R5～R6）維持管理（R6～R20） ●個別事業契約								
			●解体（旧プール） 設計		解体・工事				※事業工程は市の想定であり、事業者提案により異なる場合があります。		
			●多目的グラウンド整備 測量・設計						▼工事議決 工事		
			●野球場改修 設計						▼工事議決 工事		
				▼ワークショップ					▼指定管理議決		

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
2,3	プロスポーツ等連携推進事業	プロスポーツチームとの連携をさらに発展させていくとともに、大学生をはじめ多くの若者が暮らす地域特性を活かし、アーバンスポーツの推進により、宇部らしい若者文化を広く発信し、交流人口の拡大による地域活性化、若者同士の交流やにぎわいの創出を図る。これらの効果を最大限に引き出すために、アーバンスポーツやプロスポーツのイベント開催や将来的な施設整備の検討、さらなるスポーツ普及活動に取り組む。	14.5% スポーツを通じて交流する人の割合	14.5%

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
これまで取り組んできたプロスポーツチームとの連携を継続し、児童生徒がプロスポーツ選手と直接触れ合える子ども夢教室や観戦応援ツアーなどを通じて、チームと市民の連帯感やシビックプライドを醸成し、地域活性化を目指す。 アウェイチームサポーターに対し、市内で利用可能な電子クーポンを発行。これにより、市の魅力を紹介し、地域経済活性化を図ると同時に、観戦以外でも市への再訪を促すアウェイツーリズム助成を実施する。 トップアスリートの高いレベルの競技を間近で感じられる大会を中心市街地エリアで開催し、スポーツへの親しみと賑わいを創出する。また、アーバンスポーツを身近に楽しめる場として、3人制バスケットコートを中心市街地エリア内に整備する。 今後のスポーツを起点としたまちづくりを進めるため、専門家によるアドバイザリー業務委託を実施。スポーツだけでなく、地域のシンボルとなり得る複合施設の整備に向けた構想・計画ビジョンを作成する。		48,700	15,4%
（庁内連携課）	中心市街地活性化推進課、地域ブランド推進課、観光交流課、広報広聴課	うち一財 21,830	
（共創パートナー）	宇部市体育協会、宇部市スポーツコミッション、JC、未来アドバイザー、市内大学生		

事業スケジュール

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

■3x3.EXE PREMIER JAPAN 2023
▼広報・メディア・SNSなどで告知
庁内関係課・共創パートナーと調整 ★開催

■アーバンスポーツフェスティバル（パルクール日本選手権ほか）
▼メディア・SNSなどで告知
関係機関・庁内関係課・共創パートナーと調整 ▼記者会見 ▼広報 ▼広報 ★開催

■3x3コート整備
関係課調整 地元・競技者との調整 ▼広報 入札・工事 ▼広報 ★オープニングイベント（市民大会）

■アーバンスポーツ教室
▼広報 ★JC共創イベント ★宇部まつりでの開催 ▼広報 平和通りイベント★

■プロチームとの連携によるまちづくり
夢教室 6～2月 小学校12校・共創イベント

▲広報 ★レノファ観戦応援ツアー ▲広報 ★レノファサンクスデー
▲広報 ★ペイトリオッツ開幕戦 ★市民応援デー ★市民応援デー

■地域密着型スポーツチーム支援振興アドバイザー業務
●アウェイツーリズム助成事業の実施

事業者選定 ワークショップ・関係者ヒアリング ★プロスポーツ応援クラウドファンディング ★連携イベント ★ビジョンの策定 連携イベント★
★パルクール日本選手権連携イベント

課 方 針 書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
4	新たな部活動体制整備事業（スポーツ）	学校部活動の地域移行を円滑に進めるためには、地域の体制整備及び指導者の確保、地域クラブの活動支援等の課題を、教育委員会や文化・スポーツ関係団体と協議する等の連携が必要である。	－	－

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
中学校における新たなスポーツの推進のために運営協議会を立ち上げ、継続可能は地域部活動を目指し、進捗管理、懸案事項の抽出を行う。 運営協議会は、活動したい生徒が参加できる為の制度設計や、地域クラブの設立・運営支援をすることで、従来の部活動にない魅力的な地域クラブ設立を目指す。		11,879	体制整備・実証事業4団体
（庁内連携課）	学校教育課、広報広聴課	うち一財 4,538	
（共創パートナー）	小中学校、各校学校運営協議会、市PTA連合会、小中学校校長会、小中学校教頭会、小中学校教育研究会、中学校体育連盟、中学校文化連盟、県教育委員会、市スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ		

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
スポーツ・文化活動体制整備協議会（協議会終了後、ウェブサイトにて情報発信）											
	●令和5年度 第1回 協議会		●第2回 協議会			●第3回 協議会	●第4回 協議会			●第5回 協議会	
スポーツ・文化活動運営協議会											
	制度設計・運営団体、指導者の確保 ←→										
						地域クラブ移行に関する説明会					
						●記者会見 ←→					
地域クラブ実証事業（Goppo、山口ペイトリオッツ ほか2団体）											
運営団体・実施主体・中学校 調整 ←→				検証・課題抽出 ←→							
							R6年度 移行準備（各種団体、中学校 調整、予算化） ←→				

課　方　針　書

年度	課名	課長名
R5	文化振興課	中祖　敏文

1　課の使命

課の果たすべき責務、存在理由
文化を通して享受する楽しさや感動は、市民の心を豊かにし、日々の暮らしに潤いをもたらすとともに、文化やアートは、人と人、人と社会のつながりを深め、市民生活や活力ある社会の基礎となるものであるため、市民への効果的な文化施策に取り組むとともに、文化施設についても計画的な維持管理を行いながら、人と地域がきらめく文化の薫るまちづくりを推進する。また、歴史あるUBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）を、市民一人ひとりのシビックプライドにつなげ、我がまちにある彫刻をより身近に感じてもらう機会を創出するとともに、人が集う魅力ある地域づくりを目指す。

2　課の目標・アウトカム　前期実行計画及び総合戦略の目標、その他個別計画や課の使命等に基づく目標とアウトカム

目標No	目標・成果指標	計画種別	計画期間	目標値（単位）	R4年度末の実績見込値	R5年度末の目標値	アウトカム（ありたい姿・得られる効果）
1	「UBEビエンナーレ」に対する市民の理解度	第五次総合計画	R4～R8	80.0%	78.5%	79.0%	市民に「UBEビエンナーレ」を継承していく大切さが再認識されることで、シビックプライドが醸成されるとともに、まちの魅力向上や交流人口の拡大、にぎわいの創出にもつながる。
2	文化を鑑賞した人の割合	第五次総合計画	R4～R8	80.0%	69.8%	73.0%	市民が文化に触れることで、心を豊かにし、日々の暮らしに潤いをもたらすとともに、人と人、人と社会のつながりがより深まり、市民生活の向上や活力ある社会づくりにつながる。
3	彫刻教育受講者数		R4～R8	2,900人	2,576人	2,600人	彫刻教育を受けることで、我がまちの野外彫刻について知ることができ、シビックプライドが醸成されるとともに、アート教育としても想像力や豊かな感性が育まれる。

3 課の目標・アウトカムの達成に向けた取組とスケジュール

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
1	UBEビエンナーレ推進事業	60年以上続く、世界で最も歴史あるUBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）は、回を重ねる毎に来場者数は増加しており、引き続き、野外彫刻展を継続開催し、本市独自の文化を継承する必要がある。（来場者数：第26回90,024人、第27回98,450人、第28回102,663人、第29回104,999人） 一方で、瀬戸内国際芸術祭や越後妻有大地の芸術祭などと比較して全国的には知名度が高くなく、市民の認知度や理解もさまざまであることから、持続可能な彫刻展を目指し、将来の方向性を示すビジョンの策定が必要である。	「UBEビエンナーレ」に対する市民の理解度 75.0%	78.5%

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
第30回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）の作品公募、一次審査及び応募作品展を実施・開催するとともに、100年続く持続可能な彫刻展の開催を目指し、第31回展からの方向性を示すビジョンを策定する。		39,871	79.0%
（庁内連携課）	公園緑地課	うち一財 23,811	
（共創パートナー）	UBEビエンナーレ運営委員会，UBEビエンナーレあり方検討会，宇部市ふるさとコンパニオンの会		

事業スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

■第30回UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）

- 運営委員会 4/7
- 市長会見 4/25
- 6/1 ← 作品募集 → 9/10
- 9/23 一次審査
- 応募作品展（9/24～10/22）
- 彫刻の丘ライトアップ
- 第29回展作品撤去
- 第30回UBEビエンナーレ作品募集PR（作家や大使館,国内美術系大学や美術館にDM・SNS発信）
- 応募作品展PR活動
- 応募作品展報道発表
- 広報うべ
- 九博PR展準備
- 九博PR展報道発表
- 九博PR展
- 本展に向けてのﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ（委託）

■UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）ビジョン策定

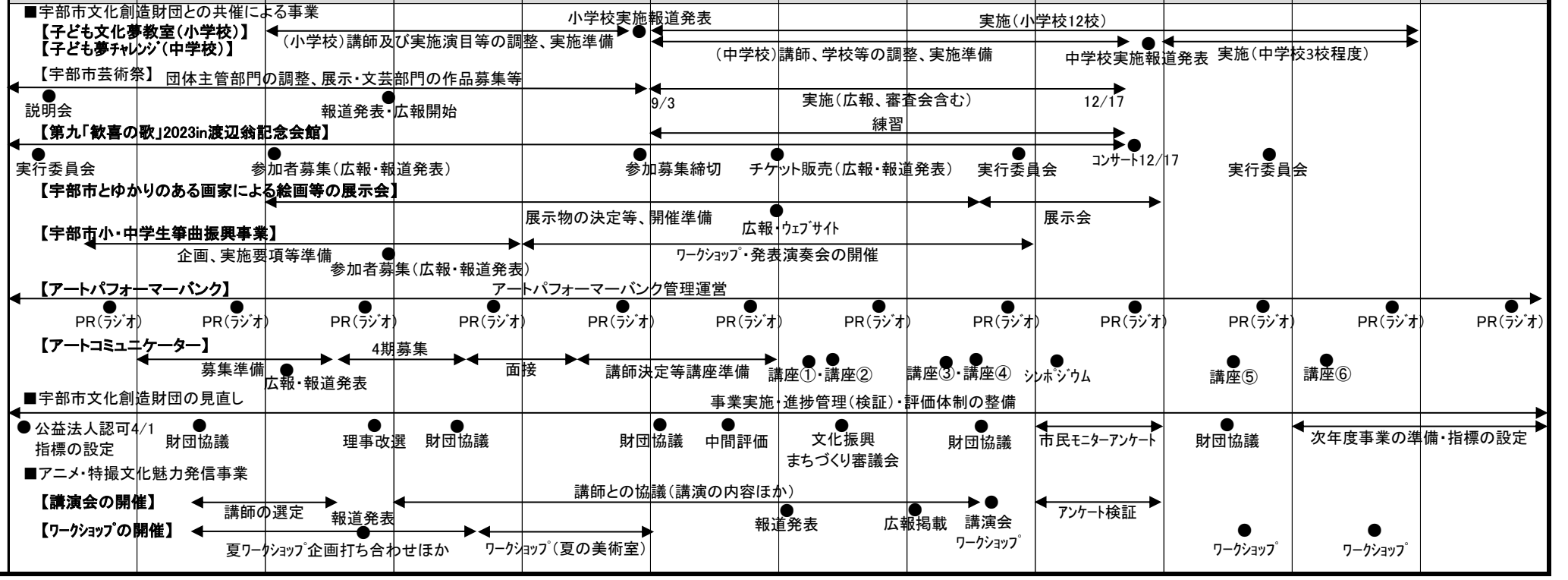
- 4/3 ワークショップ参加者募集 5/26
- ワークショップ開催
- WS 6/3
- WS 7/22
- WS 9/2
- 運営委員協議
- 素案作成
- 運営委員協議
- 議会報告
- 報道発表
- ビジョン説明会
- パブリックコメント
- 幹部会議報告
- ビジョン策定

課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
2	文化活動推進事業	新型コロナウイルスの影響により、市民の文化を鑑賞した割合が低下したが、徐々にコロナ以前まで回復しつつあるため、今後も文化活動への参加・鑑賞機会を充実させるとともに、文化活動の指導者の育成にも取り組んでいく必要がある。(文化を鑑賞した市民の割合：R元年度 76.8%, R2年度 49.8%, R3年度 55.7%) また、宇部市文化創造財団の文化創造事業や市民文化活動支援等は、公演等を行うことが目的となっており、効果検証も内部評価にとどまっていることから、目標や成果指標を明確化し、外部の意見も取り入れ客観的に評価できる体制を整備する必要がある。	文化を鑑賞した市民の割合 70.0%	69.8%

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
宇部市文化創造財団と連携し、市民の文化活動の支援を行うとともに、市民が良質な文化に触れるための公演等の開催や次代を担う世代への鑑賞や体験の機会の提供、誰もが楽しめる文化事業等を実施する。また、アートと人をつなぐ人材も育成しながら、アート活動を支援する。 あわせて、宇部市文化創造財団の文化事業に適切な指標を設定の上、来場者や市民アンケートを通して検証作業を行い、文化振興まちづくり審議会の意見を参考にするなど、評価体制を整備する。		64,221	73.0%
（庁内連携課）	学校教育課	うち一財　63,221	
（共創パートナー）	公益財団法人宇部市文化創造財団, 宇部文化連盟		

事業スケジュール

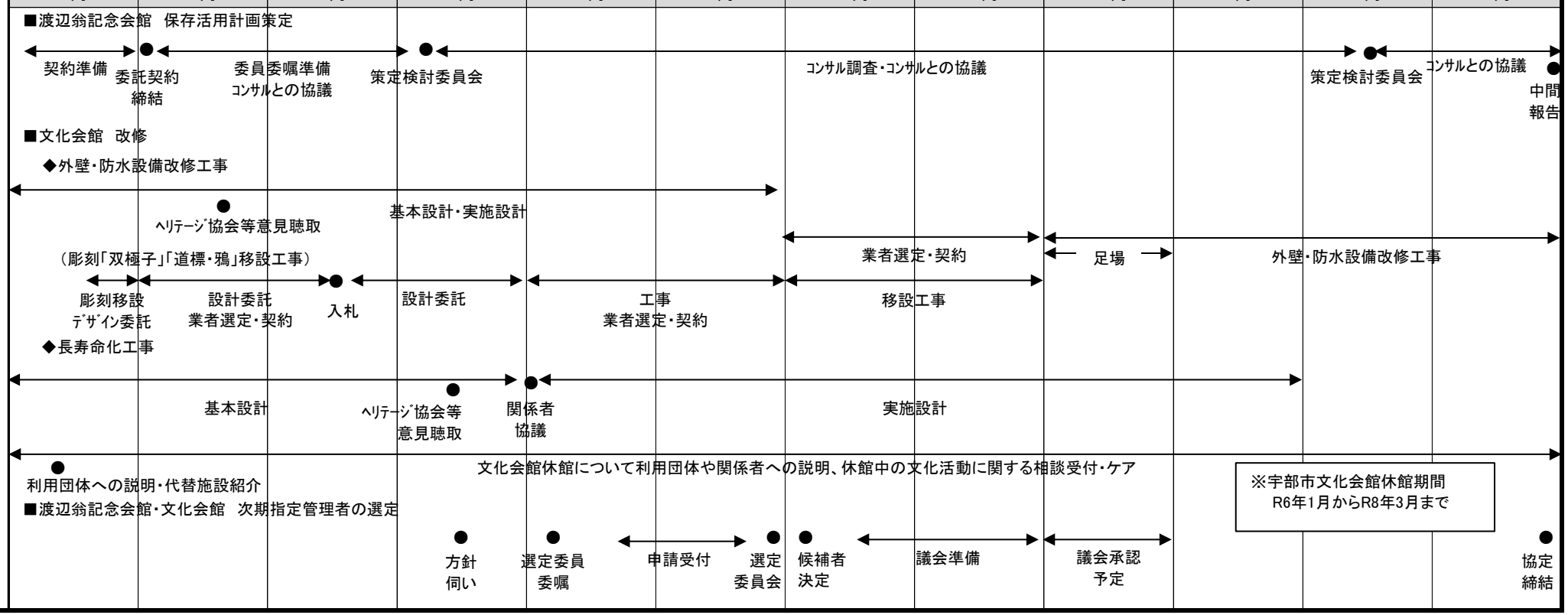


課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
3	文化施設整備（管理）事業	渡辺翁記念会館は、昭和12年に落成以来、築86年経過。文化会館は、昭和54年に落成以来、築44年経過。ともに耐震化や空調設備の更新など、長寿命化を図る必要がある。また、記念会館は、平成17年に国指定重要文化財の認定を受けたことから、大規模な改修を行う際は文化庁と協議するために、「文化財保存活用計画」を策定する必要がある。	記念会館保存活用計画策定への補助金申請 －	記念会館保存活用計画策定への補助金申請

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
渡辺翁記念会館や文化会館の長寿命化を図るため、営繕課や専門家等と協議しながら、文化会館の外壁・防水設備工事の設計及び工事、特定天井改修工事の設計を実施するとともに、渡辺翁記念会館の大規模改修を行うため、策定検討委員会を開催し、令和6年度の「文化財保存活用計画」策定に向け中間報告書を作成する。 あわせて、文化会館利用団体等へ、令和6年1月以降の休館中の対応について説明していく。 また、令和6年度からの渡辺翁記念会館・文化会館の指定管理者の選定を行う。		273,345	記念会館保存活用計画中間策定
（庁内連携課）	営繕課，財産管理課	うち一財　121,800	
（共創パートナー）	公益財団法人宇部市文化創造財団，渡辺翁記念会館保存活用計画策定委員会		

事業スケジュール



課　方　針　書

目標No.	事業名	事業実施の根拠（ボトルネックは何か、なぜ実施するか等をデータを用いて記載）	R4年度目標	R4年度実績
4	アートのまちづくり推進事業	まちの賑わい・活力を高めるため、市民や観光客が彫刻や多様なアートに触れる機会を創出する必要がある。また令和4年度は2,576人（子ども 2,516人、大人 60人）が彫刻教育を受講し、「好きな彫刻が見つかった」「彫刻に関心を持った」など、アートについて考え、感じるきっかけとなっていることから、引き続き、彫刻教育を推進する必要がある。	彫刻教育受講者数 2,100人	2,576人

取組内容（共創事業は、共創パートナーも記載）		当初予算額(千円)	R5年度目標
彫刻を通じた企画展やワークショップ等を開催し、市民に彫刻をより身近に感じてもらう機会を創出するとともに、交流人口の増加も図り、アートによるまちづくりを推進する。 また、市内には約200点の野外彫刻を設置しており、安心安全のまちづくりのために計画的に点検を実施し、必要に応じて随時修復作業、検査を実施する。 年間を通して、UBEビエンナーレライブラリーでUBEビエンナーレに関連する様々な情報発信をし、彫刻について学んだり、遊んだり出来るコーナーを設置する。あわせて小中学校を対象に、彫刻を活用した様々な教育プログラムを行うとともに、生涯学習としても、地域や団体、大学での講座開催を実施する。		24,658	2,600人
（庁内連携課）	学校教育課	うち一財 22,308	
（共創パートナー）	うべ彫刻ファン倶楽部、宇部市ふるさとコンパニオンの会、なでしこ会		

事業スケジュール

4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

■小学4年生（24校）彫刻鑑賞授業・小中学校の模型鑑賞授業
- 企画・準備
- 小学校への案内，調整（バス手配など）
- 彫刻・模型鑑賞授業

■女子美術大学等の実習生受け入れ及び大学との連携
- 受入準備・調整
- 女子美実習
- 大学連携随時実施（山口大学、広島市立大学、東京造形大学ほか）

■企画展
- 春の企画展　4/1～6/18
- 撤収・準備　企画展PR　●報道発表　●広報うべ掲載
- ●WS実施　夏の美術室 7/21～8/27
- 撤収・準備　企画展PR　●報道発表
- ●広報うべ掲載
- ●WS実施　秋の企画展　10/6～12/3
- 撤収・準備　企画展PR　●報道発表
- ●広報うべ
- ●WS実施　冬の企画展　2/9～3/17

■彫刻メンテナンス
- 修復作業「重力空間-赤」、「三個の直方体」
- ●彫刻展示委員会
- その他、修復作業実施
- 修復作業「蟻の城」
- 彫刻点検・巡回実施
- 修復作品・要検査の検討・優先順位付け
- 検査実施

■UBEビエンナーレライブラリー
- 年間を通して、情報発信、PRを実施、未就学児童から大人までが彫刻について学んだり、遊んだり出来るコーナーを設置

■彫刻清掃
- 小中学校・高校・大学など教育機関、経営者団体、ボランティア団体など、随時実施
- ●うべ彫刻ファン倶楽部 秋の定期清掃　9/23
- ●うべ彫刻ファン倶楽部 春の定期清掃　3/20